

農業者の 農業保険 120人が加入手続き 庄内4JAで体制整う

J Aグループ山形地域・担い手サポートセンターと庄内みどり、そでうら、庄内たがわ、鶴岡の庄内地区4JAは6月までに、酒田市の三谷社会保険労務士事務所と連携し、希望する全ての農業者がJ Aを介して労災保険に加入できるように環境を整備した。サポートセンターは、6日までに120人の担い手が加入手続きを進めていることを明らかにした。

社労士事務所側は、既存の労働保険事務組合に加えて、特定農作業機械従事者と特定農作業従事者向けに、二つの労災保険特別加入団体を新たに設置。加入事務手続きを行う体制を整える一方、4JAと説明会などの普及・加入推進に関する業務委託契約を結んだ。

これにより、農業者は労働保険事務組合と労災保険特別加入団体のいずれかの申し込みルートを選択して、労災保険に加入できる環境が整った。J Aあまるめは既に、J Aを通じた加入環境をほぼ整えており、庄内地区は県内に先駆けて、労災保険加入の支援体制が確立されたことになる。万一の農作業中の事故に備えた農業者の労災保険加入率は、自ら特別加入団体を組織して加入手続きを行う必要があることなどから、他産業従事者に比べ極端に低い。地域・担い手サポートセンターは、引き続き県内全域への加入支援展開に向けて、環境整備を図っていく方針だ。